

3. 中学生のアドバサティとレジリアンス

川崎健二

中学生にとっての不運や逆境は、友達とのけんかや学級でのいじめ、家族の死去など、人的な要因に関するものが多い。大人に比べ人生経験が短いので、アドバサティの経験をした生徒は少数であり、そのためにまだ十分な耐性ができていないのが中学生の特徴である。従って、ひとたび重大なアドバサティに直面すると、大人からみればほんの些細なことであっても、本人にとっては深刻であり、悩み苦しむことがある。

アドバサティに直面した場合、生徒は、①音楽を聴いたり買い物など、別のことで気を紛らわせる、②友達や家族に相談する、③何もしないでじっとしている、などで対処するとしている。つまり生徒のレジリアンスを助けるためには、生徒自身が強くなることと共に、親しい他者からの支援が必要である。

そこで学校教育では、まず生徒自身に困難に対する耐性や、自分で解決できる力を身につけさせることが必要である。具体的には日々の部活動や体育祭・文化祭、自然体験学習、生徒会活動、総合的な学習の時間など、様々な体験活動を通して耐性を養うと共に、その達成経験を積み重ねることで自己効力感を高めていくのである。次に、生徒がアドバサティに直面した時に、教師が直接支援することも大切であるが、それ以前に学校生活全体を通して、友達作りや集団の支持的な雰囲気づくりに努め、生徒同士でレジリアンスへと向かう力を育てておくことが重要であろう。

4. 高校生では

西川勝美

高校生にとってアドバサティと考えられるものは一人ひとりに関わる課題（問題）と高校生一般としての問題とに分類できる。高校生一般として抱える課題としては現代社会が抱えている問題、すなわち最近では人の“こころ”に関わる問題に以前に比べ焦点を当てるようになったものの、まだ経済活動優先の社会であることや、価値観の喪失、物質や情報過多の問題、あらゆる物や行動の価値の低さ、人と人との直接の対話やコミュニケーションではなく、インターネットや携帯電話等に代表されるような間接的な関係がそのまま高校生にも及んでいることである。また、こうした社会的

な問題を背景にして学校生活で一人ひとりの高校生が抱える課題としては友人関係と学習（進路の課題も含む）に関わることが中心であると考えられるが、家庭での家族関係やアルバイトの問題等も高校生が抱えるアドバサティとなっていると考える。

このような環境の中で高校生が自分自身の課題に遭遇した際に彼ら自身何を支えにして取り組み、課題を克服しているのか、そのため教師や友人・家族にどのような指導や援助を望んでいるのかについて高校現場での実践と「高校生のストレスと学校適応」に関する私自身の研究結果を踏まえた報告をしたい。また課題を克服できず挫折し、学校を去っていく生徒や無気力な学校生活を送ってしまう生徒については事例報告を通して検討したい。

5. レジリアンスの発達と教育

無藤 隆

レジリアンスは、回復力であり、柔軟性である。人生にストレスは付き物である。子どもや大人を囲む環境の改善においてストレス源を減らすことは必要だが、ゼロを目指すことは意味がない。その上、一定のストレスは対処如何で活性源ともなる。ストレスを持続的に害としないこと、さらには積極的な対処の元へと切り替えられることが大事になる。そのためには、元々の性格（楽観性など）や愛着の安定性が有効であることはほぼ確かである。その上で教育にとって大切なことはレジリアンスがどこまで教育可能であるか、またどのような支援を用意していったらよいかである。

幼児教育にあっては、ものや友人との関わりの中でトラブルにめげずに自分のやりたいことを追い求める態度を養うことが基本となる。自己の感情を調整し、建設的な解決法を模索し、より強く取り組み、回り道を探せることである。小学校教育では、自分の力に自信を持ち、視野を広げ、長い先への見通しを持てることである。中学校・高校教育では、さらに、無力感に陥らず、家族や友達との親愛に支えられ、先の見通しのある関係を築き、積極的且つ安定し健全な生活習慣を維持することが大事ではないか。大学レベルにおいては、先に目標を志向して頑張るにせよ、今の状況を楽しむにせよ、それらの間のつながりを付けていくことが、実際の力や人間関係の涵養に基づいて可能になることが重要になるだろう。